



B2

ニュースレター

2014/9/22

今シーズンのキックオフイベント「大人のフォト遠足～歌オブナ林と花」より 5月31日開催

～10月のオススメイベント～
1泊2日 秋の秘境トレッキング！

地元野菜の販売 おまかせください



ブナマルシェ 10月未まで開催！

道の駅産直組合の課題解決とトワヴェールⅡの魅力アップづくりの一環として、ブナ里リズム(略してB2)山口がけん引役となり、取り組みを続けているブナマルシェ。前身、道の駅テントマルシェから数えて3シーズン目を迎えています。高齢化する道の駅産直組合員の皆さんと共に、これまでの課題とされた無人販売による野菜の無銭持ち逃げ防止、商品管理の向上などに加え、本年度からは生産者間の連携による多品種高付加価値の野菜づくりなどをテーマにマルシェの魅力アップを進めております。9月はイモ類をはじめ根菜類がマーケットのメインとなり、落葉キノコのシーズンが終わる10月未まで営業を続けますので、これからも宜しくお願いします。(編集長)

Player of the Season1

北の山菜 WEB3 号店・店長 佐藤悦郎さん

ブナ里みであるき「山野草観察と蔓採り体験」イベントで、地元出身プレイヤーとして活躍！

ページ 2

すずやさんの「しお羊かん」

薄い茶褐色で、見た目はいたってシンプル。食してみると、甘さはひかえめ、素朴な塩の味。

ページ 3

くろまつない今昔物語

くろまつない山道ごぼれ話

～160年間、旅人を見守ってきたお地蔵さん～

文：北村英芳

ページ 3

BEECH BOYS ～ブナ里少年期紹介～

三浦義也さん

ページ 4

全国フットパスフォーラム in かみふらの

9月20日・21日に、上富良野町で全国フットパスフォーラム in かみふらのが開催された。「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】』のことだ(日本フットパス協会のHPから)。日本においても、20年ほど前から取り組み始め、北海道や九州、東京、山形など、全国各地でその運動が広がっている。北海道では、農村部を中心にフットパスコースが整備されているが、本町はフットパスボランティア組織を10年以上前から設立し、フットパスの普及活動にも積極的に力がかかわる先進地域とされている。フォーラムでは、冒頭に富良野演劇工房メンバーによる演劇が行われ、今の社会が急ぎすぎていることへの問いかけ、ゆっくり歩く＝生活の速度をゆるめることで四季の素晴らしさや人と感動を共感することができることといった演劇表現を繰り広げ、フォーラム参加者へメッセージを発信した。その後の基調講演では、「九州オレルの取り組みについて～道を通じた交流～」と題して、九州観光推進機構の李 唯美(イ ユミ)氏が講演した。また、パネルディスカッションでは、「道を楽しむ」～フットパスから生まれる感動と健康～について、エコ・ネットワーク代表・小川巖氏がコーディネーター役となり、フットパスネットワーク九州議長・井澤り子氏、根室 AB-MOBIT 事務局・塩津朋氏、NPO 法人みどりのゆび・神谷氏、フットパスネットワーク北海道事務局・小川浩一郎氏が討論した。今後、このような取り組みを通じて、都市農村間のゆるやかな交流人口の増加、歩くことによる健康増進、自然や文化に触れあう活動として、フットパス歩きが新たなライフスタイルを提案する可能性を感じた。(編集長)



おすすめ本の紹介



～寿都五十話～

江戸時代末期から現代まで、町の歴史や産業、暮らしを期した「寿都五十話 ニシン・鉄道・鉱山そして人々の記憶」を函館市の山本竜也さん(37)が今年の春に自費出版、北海道新聞等で紹介されました。函館地方気象台職員である山本さんが旧寿都測候所勤務をきっかけに2年の歳月をかけ取材・執筆。寿都への思いや山本さん個人の探究心が形となった文献です。

A 5版 784 ページ 2014年3月15日発行

本体価格 2,400円 道の駅「みなとまーれ寿都」にて販売 マナヴェールで貸出



Player of the season1 北の山菜 WEB3 号店・店長 佐藤悦郎さん

6月29日(日)、しまわらの森で実施の「山野草観察と蔓採り体験」にてプレイヤー(体験案内人)を務めた「山菜オヤジ」と佐藤悦郎さんを2014年ブナ里みてあるきシーズン1のベストプレイヤーに選びました。今回の体験イベントをきっかけに、ブドウ蔓籠作りをはじめた方も現れ、材料採取から蔓籠づくりの加工販売まで、すべての作業工程を黒松内で行える日が来ることを期待しております。

実りの秋がやってきた！ アイガモ農法による、有機栽培で育った赤井川地区のきたゆきもち



FOOD



すずやさんの「しお羊かん」

ぶな山にのぼりて ひといき しお羊かん

～すずや～

薄い茶褐色で、見た目はいたってシンプル。食してみると、甘さはひかえめ、素朴な塩の味。この、塩味は岩内の海水深層水から作られた「星の塩」を使用し、羊羹の甘みと相まって生まれた塩気である。秋の行楽シーズンに、登山やトレッキングへと向かうウォーカーのカロリー補給と塩分補給にピッタリの逸品である。黒松内岳への出発前に、温かい日本茶をフラスコに注ぎ、旭野のすずやさんで塩羊かんを買い、おかみさんに笑顔で送り出され、いざ、黒松内岳の山頂目指して出発しよう。 (編集長)

好評ホワイトシシト、収穫間もなく終了

中米で初めて人類に食された時より数千年。クリストファー・コロンブスが1492年にアメリカ大陸を発見した後、ヨーロッパに持って帰り、明治初期にアメリカから北海道に栽培用に持ち込まれたトウモロコシ。500年以上の歳月を経て、ついにここまで進化したのである。いや、もしかしたら、これはもはや進化という次元を超えているかもしれない。それがこれ、「ホワイトシシト」なのだ。あ、これ見たことある。と思ったその方、ちょっとお待ちを。おそらくあなたが見かけたことがあるのは、ピュアホワイト。ピュアホワイトは市場に流通しはじめて約10年。いまだに作付面積が少ないので希少であることには変わりないのは確か。が、しかし、ホワイトシシトはそのピュアホワイトのさらに進化型なのだ。ピュアホワイトがホワイトシシトという別次元に上昇したのは約3年前。ホワイトシシトはピュアホワイトよりもさらに糖度が高く、生で食べられるように皮が薄くなっている。さらに、業界用語でいうところの「しなび（ハリのない粒）」がなく、すべての粒がパーンと張っているのが特徴だ。世界の野菜を何十年と目利きし、味わい、時には生産者と一緒に新しい品種を開発する東京シティ青果の朱亀さんをも「画期的」といひしめる一品なのである。こちら、9月いっぱいしか食べられないので、機会を逃さないように。

～食料品ティック「FRESCA」さんのブログより抜粋～

今シーズ赤井川体験農園で栽培したホワイトシシト好評です！残り少ないですが、まだ収穫できますので購入希望の方は、ブナ里ツーリズムまでお問い合わせください。(販売価格は1本150円)



昭和レトロ食堂へようこそ

～長万部 甘太郎食堂～

JR 長万部駅周辺で昼食をとれる店は、そう多くない。そのなかで、他にはないレトロなおススメ食堂がある。それが、甘太郎食堂。外観からしてもすごく味のある店、前を通りかかると心に響いていた。勇気を持って店内に入ると、すくま昭和にタイムスリップする。数種類のパイプテーブルとパイプ椅子が並び狭い空間。昭和40年代後半に購入されたと思われる調理器具、食器類に箸ケース。壁に掛けられたメニュー札を見るとラーメン、そば、うどんの麺類にチャーハン、丼ものなどのご飯類と大衆食堂のポピュラーメニューがずらりと並び、甘太郎という北海道では大判焼きのことをあらわすのだが、それはメニューになかった。創業時は甘味も出していたのかもしれない。メニュー札の右端、ラーメンを注文。厨房は女性陣2名とおやじさん1名で切り盛りしているようである。知人にすすめられた醤油ラーメンとチャーハンを注文すると、やってきたラーメンもチャーハンは期待どおり見、味ともに昭和レトロだった。それにしても、昭和のアイテムをこれだけ大切に保管し、使い続けていることに敬意を表したい。生きた昭和史博物館へ是非一度立ち寄るべし。

Blog「今日昼」より

<<黒松内今昔物語>> ～黒松内山道こぼれ話①～

―百五十年間、旅人を見守るお地藏さん― 文：北村英芳

白炭地区にある中の川バス待合所の中に、きれいな着物を着た二体のお地藏さんがまるでバス旅行者を見守るかのように鎮座している。左側の地藏さんは、顔がのつぺらぼうで首はガムテープで補修されている。少し変わった地藏さんなので、バス停近くに住む知人の鈴木クニさんに、地藏さんのいわれを聞いてみた。クニさんの言うことに、『昔、白炭川を流れてきた地藏さんだと俺は聞いているな。詳しい事は、奥に住む清野の父さんがよく知ってるぞ！』と教えてくれたので「おう！これは円空のような高僧が、白炭川の支流で修行をしながら石仏を彫っていたのでは？いやまてよ、白炭川では昔砂金が採れたと聞いたことがあるので、何か砂金にまつわる忌まわしい事件があったのでは？これは黒松内の新史実だ！』と、勝手に空想した。後日、清野さんの家へ土産も持たずにおじゃました。『清野さん、クニさんからバス停の地藏さんは昔、白炭川を流れて来たと言ったんだけど、あの地藏さんは偉い坊さんか、さぞや名のある石工が彫った物ではないか？』

…清野さん曰く…『白炭川を流れて来たと言ったクニが言った？そりや違う。あれは、太平洋戦争が始まった年の昭和十六年に、その本道沿い（※道々九号線）に住んでいた水上りきおが、炭鉱汽船の山へ落葉松を植えるのに、草を刈って地ごしらえして見つけたそうだ。加納の家から、西のまーぼ（※同地区在住の西政孝氏）の家へ行く町道の左側の山だ。見つけた時から、首はもげて（取れて）いたそうだ。昔、あのあたりに歌葉や磯谷のニシキ場へ行くやま道が在ったというから、旅の人のことを思って置いたんだべな～。始めは、「弾よけ地藏」って名前を付けて、りきおの家に置いたんだ。戦争時代だったからだべな～。戦争が終わってからは、水上のおがちゃって言った、りきおの母親、鎌田のぼば、小枝のぼば、乙坂のぼば、それからうちのお黒歯ぼばだちが、地藏さんを「延命地藏」って名前に変えて祀ったんだ。それが今、毎年白炭集会所でやる「地藏まつり」の始まりだ。そのあと婆だちは、一つではかわいそうなので、作開観音寺の太った坊さんに相談したんだ。そしたら坊さんは、作開の寺にあった地藏さん一つ持って来たんだ。確か「ふくとく（※福德）地藏」って言ったかな？隣の顔の黒いのが作開のやつだ。ちょうどその頃、寿都鉄道の会社がバスも走らせてバス待合所を建てたから、皆でお願いして待合所の中に地藏さんを置かせてもらうことにしたそうだ…。』



(平成二十六年二月十一日 白炭地区 清野文夫氏宅にて聞き取り)

A LOOK -あるつく- 黒松内駅前

黒松内山道の宿として町史に名を残す花岡宿だが、そのルーツは、花岡利右衛門にある。利右衛門は1856年の黒松内山道開通以前から花岡宿を開き、この地に住み着いた開拓の祖といわれている。当時の宿は、明治になると黒松内駅進所になり、1903年の鉄道開通後は黒松内駅前に宿を移し、花岡屋として開業する。また、昭和になってからは主に駅弁の製造販売をするようになり「お寿し」弁当や「上等弁当」などを旅人に販売した。



BEECH BOYS ~ブナ里少年記紹介~

赤井川在住 三浦義成さん 東京都生まれ 61歳
 まるメガネにヒゲ、スキンヘッドがすっかりトレードマークになった「とうふ処みうら」の店主・義成さんに幼少期の思い出を聞いてみました。
 Q.子供のころはどんな少年だったのですか？
 A.中学校1年生まで、通信簿にはいつも「落ち着きがない」と書かれていた。人を笑わせるのが好きで、よく、鼻から牛乳をプツと吹いていた。(笑) あと、山ゆりを採りにいったり、盆栽をいじったり、植物を育てるのが好きだったねー。
 Q.小さい頃の思い出の風景は？
 A.旋盤工場において、肥溜め、街灯、ゴミ箱、、、一次産業と二次産業が混じった風景かな。それと、小学校1年生くらいのときに経験した伊勢湾台風。冠水した街にたくさん浮かんだナスの風景も記憶に残っているよ。オヤジと一緒に拾って、家に持って帰って食べたけど、うまかった。
 Q.義成少年はいったい何になろうと思いました？
 A.骨折して動けなくなったとき、絵を描いてみたらうまく描けて褒められたので、大人になったら絵を描いて生活したいなーと思った。高校生になってからは、イラストレーターになろうと思った。
 Q.少年時代の夢と今抱いている夢、結びつくところはありますか？
 A.絵を描きたいという思いは、今も昔も変わらないかな。今は、オーストラリアで綿羊をやってみたいなーなんていう夢を描いたり(笑)、やっぱり農業への思いもあるから、半農半芸が理想かな。
 Q.ブナ里で少年時代を送る子どもたちへメッセージを！
 A.心からやりたいことをやってください。



編集長から一言。。。
 ブレスブラザーズの名曲「Soul man」の中に「I am a soul man」というフレーズがある。この曲を聴くと苦勞を笑いで吹き飛ばしてきた義成さんお得意の即興パフォーマンスをつい思い出してしまう。とうふ処みうらで製造する大豆まるごと豆腐「雪ぼうず」が、2104年北のハイグレード食品21品にも選定され、即興パフォーマンスとともに匠の技に磨きがかかる。

EVENTS

Eishin NOSE + Satoshi TAKEISHI
 THE GATE TOUR 2014
 黒松内 @ ANGE DE FROMAGE

野瀬栄進 Piano 武石聡 Percussion
 New Album "RITUALS" 発売
 ワシントンD.C.ケネディーセンター演奏決定 記念ツアー

2014. 9. 27 [Sat]
 Open 17:30 / Start 18:00
 ANGE DE FROMAGE
 (黒松内町赤井川114番地)
 前売 ¥2,500 / 当日 ¥3,000

ニューヨークを拠点に、即興ジャズを中心とした音楽活動を続けているピアニスト・野瀬栄進(小樽出身)とパーカッショニスト・武石聡が、今月27日(土)にアンジュ・ド・フロマージュにてライブを行います。彼らは過去に、アンジュ・ド・フロマージュで演奏をした経験があるが、今回はワシントンD.C.ケネディーセンターでの演奏決定というビッグニュースをもって、九州から北海道まで全国ツアーを展開する。

~野瀬栄進プロフィール~
 1971年小樽市生まれ、1992年に本場でのジャズ演奏を志しアメリカ合衆国カリフォルニア州へ渡る。様々なライブハウスで演奏し、ファンフェアというヴォーカル・グループに参加。1994年にニューヨークへ移住し、音楽学校でジャズ・ピアノを改めて習う。ジャッキー・バイアード、リッチー・バイラーク、フィル・マルコヴィッツに師事し、ニューヨークのライブハウスで様々なジャズ・ミュージシャンとも共演した。トリオ・カルテットでの演奏がメインだが、ソロとしても活動している。また、アメリカでの活動の他、ヨーロッパ・日本でも活動の場を拡げ、作曲・音楽プロデューサーとしての活動も並行して行っている。

チケット購入のお問い合わせは、
 アンジュ・ド・フロマージュ(TEL: 0136-75-7400)まで

October&November

B2 イベント情報

10月4日(土)・5日(日)

<<秋のフットパスイベント>>

4日は午後から白井川・赤井川コースを歩き、5日は開設10周年を迎えるチョコボシナイコースを歩きます。

お問い合わせは、町企画調整課まで TEL:0136-72-3597

10月17日(土)・18日(日)

ブナ里ツーリズム企画運営 第4回ブナ里みてあるき

<<1泊2日 秋の秘境トレッキング>>

1日目は秘境駅 JR 小幌駅コース、2日目は秘境湖コックリ湖コースのダブル秘境トレッキング+宿泊をセットにしたイベントです！トレッキングのみの参加もOKです！

10月25日(土)・26日(日)

<<ブナ林再生植樹ツアー>>

26日午前開催のブナ林散策ツアーは、会員加入が条件ですが町内からの参加も可能。北限のブナ林帯最前線である白井川ブナ林を観察する数少ないチャンス！ガイド役はブナセンター学芸員の斎藤均氏。

お問い合わせは、ブナセンター・ブナ林再生プロジェクト事務局まで

11月1日(土)

ブナ里ツーリズム企画運営 第5回ブナ里みてあるき

<<目賀田帯刀が描く黒松内山道をゆく>>

黒松内山道を調査し、描かれた鳥瞰図7枚を頼りに、絵図が描かれた場所を検証します。地元作開出身で、開拓史などを独自に研究しているうちに山道の絵図に魅了された北村英芳さんがプレイヤー。「帯刀が描いた場所は本当にここなのか？」歴史に思いを巡らせる旅へ。

2014 B2 サポーターズ会員 ご加入ありがとうございました

~倶知安町/大西英司さん~黒松内町/久保田豊磁さん~黒松内町/中川由加里さん~

<<2014年のサポートを募集します>>

9月までの入会は年会費2,000円(農産物1,000円相当+イベント参加費約30%割引+ニュースレターの配信)

10月からの入会・年会費は1,000円です(イベント参加費約30%割引+ニュースレターの配信)